

教員名	篁 倫子 (TAKAMURA Tomoko)
所 属	生活科学部人間生活学科発達臨床心理学講座
学 位	1980年8月 MA文学修士 (米国インディアナ州立ポール大学大学院) 1994年3月 医学博士 (東京女子医科大学)
職 名	教授
URL/E-mail	takamura@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

LD / 軽度発達障害 / 低出生体重児 / ターミナル期 / 心理教育的支援

◆主要業績

総数 (8) 件

・ 篁倫子(2006)

「ターミナル期における教育・心理的対応に関する研究—子どもと共にある教育を目指して—」独立行政法人国立特殊教育総合研究所 (平成14年度～平成17年度、研究代表者篁倫子)

・ 篁 倫子 (2005)

LD、ADHD、高機能自閉症の子どもの生きにくさ、育療、第34号、10-12、2006

・ 上野一彦, 篁 倫子, 海津亜希子 (2005)

LDI (Learning Disabilities Inventory) - LD判断のための調査票一, 東京, 日本文化科学社

◆研究内容

1) LD、ADHD、高機能自閉症等の軽度発達障害の子どものアセスメント、特別支援教育、心理的支援、教員支援等について、文部科学省の指針、事業等考慮しながら研究を進めてきた。指導ガイドの作成、教育診断法の開発等で成果を示した。

2) 小児がんの子どもやターミナル期にある子どもに対する教育・心理的支援の在り方を病弱教育の視点から研究を行い、その結果を最終年度報告書にまとめた。本研究では院内学級とその担当教員が果たしている役割と直面している課題を検討し、担当教員の研修、適正な教員配置、生と死を考える教育と研修等の必要性が明らかにされた。

3) 発達障害を視野に入れた極低出生体重児の出生から中学生まで前方視的追跡研究ではその発達経過、主に認知機能の発達と問題の発生過程と予防、親支援について検討してきた。

◆教育内容

平成18年2月に本学に着任し、学部では障害臨床学、人間関係演習、大学院では障害臨床学特論の集中講義を担当した。下記のその概要を示す。

<障害臨床学>

発達障害、特に近年、教育や福祉においても特別な支援の対象と認識されるようになったLD、ADHD、高機能自閉症等のいわゆる軽度発達障害について、その障害概念の理解と教育・心理臨床の基礎を学ぶことを目指す。

<人間関係演習>

障害や病気と共に生きることを人間の発達の視点並びに、本人、家族、教育、社会生活におけるトータルケアという視点から考えていく。

<障害臨床学特論>

LD、ADHD、高機能自閉症等の障害とその臨床について、内外の実証的研究を基に理解し、議論すると共に、各自がテーマを定めて心理・教育臨床の文献研究を報告する。

◆将来の研究計画・研究の展望

「軽度発達障害の思春期の課題と心理教育的支援 - 二次障害の予防に向けて」

LD、ADHD等の軽度発達障害の子どもは理解と支援がないままに思春期を迎えることが少なくない。様々な心理的・社会的不適応、いじめなどの社会的不利益などの「二次障害」の実態を把握し、彼らのより健全な自我発達と社会化を支える心理教育的支援のあり方を検討する。

「ターミナル期にある子どもの心理・教育的対応」

小児がんや進行性筋ジストロフィーなどを患い、特にターミナル期にある子どもの心理的支援と教育カリキュラムについて、内外の情報収集のため

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・軽度発達障害の子どもの思春期における心理教育的支援
- ・軽度発達障害と脳科学
- ・子どものターミナルケア